2024.01.18.

島根県立大学学生研究奨励金事業
研究結果概要書

島根県立大学・地域政策学部・地域政策学科
地域づくりコース３年　渡邊 千夏

1　研究テーマ

浜田市の地域資源を活用した商品開発を通した、高付加価値な商品の要素についての検証
－地域交流ツールとしてのクラフトビール開発プロジェクトから－

2　研究結果概要

本研究の目的は、「島根県立大学の関係者が地域交流ツールとして活用したくなるようなクラフトビール開発」と「商品の付加価値を高める要素を明らかにすること」にある。島根県立大学が位置する浜田市は、県西部の中核都市の役割を担い、石見地方において特に需要な拠点となっている一方で、その産業規模が年々縮小傾向にある。特に、新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)の流行以前と以後の差は歴然としていることから、COVID-19 の拡大による行動規制が産業規模の縮小に影響していることが考えられる。現在、規制の多くは解除されつつあるが、このような長期に渡る制限がもたらした影響をどのように受け止め、調整していくのかが求められていることから、特に影響のあった行動様式の一つである、飲食を通じたコミュニケーション機会の再構築より、現状の課題にアプローチしていく。そのため、本研究では、島根県浜田市の産業規模縮小と飲食を通じたコミュニケーション機会喪失の課題を解決するため、地域資源を活用したコミュニケーションツールとしてのクラフトビールの開発に挑戦する。また、この開発にあたり、より収益性の見込める高付加価値な商品について検証する。

本研究の実施は、[今後の商品開発における調査データの有効活用と商品開発継続や起業の可能性の創出]より【活力ある産業を育て雇用をつくるまち（産業経済)】と[浜田市の地域資源の有効活用と未利用資源の開拓]より【協働による持続可能なまち（地域振興)】に関する成果が期待される。

目的達成のため、取り組む項目は大きく２つある。

A) 浜田市の地域資源を活用したクラフトビールの開発

島根県西部を拠点にクラフトビール製造・販売を行う株式会社石見麦酒とクラフトビールを共同開発。石見麦酒に勤める和田谷光輝氏(以下和田谷氏)ご指導の下、研修を受けながら、学生がクラフトビールのコンセプト立案、開発計画、原料調達、製造、販売までを一貫して行う。開発の取り組みは複数のメディアに取り上げられ、クラフトビールの売れ行きは順調である。追加製造と販売が確定しており、開発に携わったメンバーによる商品開発継続や起業の可能性に繋がる。

B) 試作品を用いた市場調査Ⅰ（対象:20 歳以上の島根県立大学生、地域の方々）

本作品に向けた改良とクラフトビールをお土産として購入する際の商品価値を明らかにするため、20 歳以上の島根県立大学の学生と浜田市の地域の方々を対象とする試飲会イベントを企画、開催し【味】と【価格】に関する調査を実施。【味】に関しては、本作品の改良に向けて変更可能な要素より質問票を作成し、回答結果をもとにレシピを作り直し、本作品の改良に繋げた。【価格】に関しては、同じ商品でも、購入の用途や贈る相手によって、支払っても良いとする金額(最大支払い意志額)が増加することが明らかになった。これにより、付加価値やブランディングを考える際、第３者にものを渡す場合に価格が高くなることを考慮する必要があり、収益性の見込める高付加価値な商品開発のコンセプトづくりにおいて重要な要素になることが想像できる。加えて、売り上げの一部が島根県立大学に寄付され、大学の教育支援に活用される場合を想定した商品販売のケースでは、さらに支払い意志額が増加することが明らかになり、20 歳以上の島根県立大学の学生と浜田市にお住いの地域の方々にとって効果的な販売方法であることが明らかとなった。